

平成 22 年度第 2 回府中市美術館運営協議会結果報告書

- 1 日 時 平成 22 年 10 月 24 日 (日) 午後 1 時 30 分～ 3 時 30 分
- 2 場 所 府中市美術館会議室
- 3 出席者 委員 (順不同・敬称略)
中林、藤原、高橋、平原、吉澤、薩摩、松浦、那須、赤松、
田中、横山各委員 (大西委員欠席)
事務局
井出館長、齋田部長、石井副館長、菊池管理係長、志賀学芸
係長、武居教育普及担当主査、関主任

4 内 容

- (1) 委嘱状伝達
- (2) 府中市美術館館長挨拶
- (3) 委員自己紹介、職員紹介
- (4) 府中市美術館運営協議会の運営、内容等の説明
- (5) 正副会長の選出
会 長 中林和雄委員
副会長 藤原美江委員
- (6) 諮問状伝達
諮問事項 地域に愛される府中市美術館の運営について

5 議 題

- (1) 府中市美術館を取り巻く現況と課題について
資料に沿って事務局から報告、説明の後、質疑応答がなされる。
(中林会長) 資料 1 から資料 4 までご審議いただくわけだが、かなりの資料があるので、今の段階で入場者数、答申書等に目を通していただき、ご質問をいただきたい。答申書については、必ずしも結論ではなく、前回の委員からの様々なお発言の要旨を取りまとめたものである。
(横山委員) 資料 2 歳入・歳出事項別内訳とは市の予算か。
(事務局) 府中市美術館は市直営の美術館であるので、市全体の予算の中で運営されている。
(会長) 公立美術館の形はいろいろあるが、市の直営は少ない。
(薩摩委員) 歳出は美術館における人件費以外のものが載っていると解釈してよいか。
(事務局) その通りです。
(横山委員) 美術館費の様々な事項には人件費が入っているのか。
(事務局) 職員の人件費は入っていない。展覧会事業について説明させていただくと、展覧会事業費は企画展に係る予算で、会場のディスプレイや作品

の運搬展示撤去、図録の作成などがある。所蔵品展示管理費は常設展示、所蔵品展覧会に係る費用が当たる。

(田中委員) 美術品購入費について伺いたい。今年度については、開館10周年記念展としての予算とお聞きしたが、何か目安のようなものがあるのか。

(事務局) 美術品収集については収集に対する大きな方針に基づき実施している。22年度については周年事業の年でもあり、市民の要望の中から、開館10周年にふさわしい作品を候補作品としてしぼり、予算をつけていただき決定、議会でご承認いただき、高橋由一の作品を購入した。

(赤松委員) 地方の美術館などは、美術館毎に特色を決めていると聞くと、この館として高橋由一の作品を選んだ理由を伺いたい。

(事務局) 開館10周年にふさわしい作品であり、明治以降の近代洋画の先駆者である高橋由一の作品について調査研究を重ね、今回の作品を選んだ。

(中林会長) 美術館の基本的な収集方針はどうか。

(事務局) 館の収集方針は、開館前に定められている。1 近代以降の優れた美術作品 2 府中・多摩地域にゆかりのある美術作家の作品 3 将来性のある若手作家の作品 4 その他 となっている。

(中林会長) 由一の作品は1に当てはまると理解してよいか。

(事務局) 江戸後期の洋風画から1の近代以降は東西交流に焦点を当てた収集をしてきたが、由一はその要になる作品と考えている。

(薩摩委員) 「地域に愛される美術館」とあるが、地域から大切にされる美術館なのか、よい地域の中にある美術館なのか、共存の関係をどのように美術館として捉えているか。

(館長) 府中市民と府中市美術館のよい関係とはどのようなものなのか、ご審議いただきたい。かつて山梨県立美術館の学芸員をしていた頃、山梨県民に愛されるにはどうしたらよいか、よい関係とはどういうものかと考えた。美術館ができて、お客様を連れて行くのが楽しみになったというお言葉を頂戴して、「応接間としての美術館」になりつつあると思えた。府中市民にも美術館へ行きましょうという気持ちになっていただきたい。

(中林会長) 共存とは、市民の要望を全て受け入れるだけでなく、素晴らしいものがあるということをも美術館からも発信していく必要があると思う。二者択一ではなく、両面を考慮しながら、この場で様々な意見をおききたい。また、歳出に対する歳入の割合は諸外国の美術館に比べても、標準的であり、国公立の美術館としては良好といえる。次に、今回は初めての会合でもあることから、府中市美術館の活動、現状について各委員からご意見を伺いたい。また、今の美術館に対する考え方などもお示しいただきたい。

(高橋委員) 府中市美術館は、北多摩中学校美術展で毎年利用させていただいている。東京都内の美術館に匹敵するくらい、環境的にも恵まれている。美術普及面においても様々な取り組みをしており、中学生もワークショップなどに参加している。気軽に足を運べる美術館があり、府中の子どもたちは

恵まれている。生徒たちにとって、敷居の低い、授業ではできない様々な経験を実際に体験できる美術館であってほしい。北多摩中学校美術展とは、北多摩地区内の各学校の一年間の作品の中から優秀作品を選び、それぞれのキャプションをつけて展示している。他の地区の生徒の作品も鑑賞できる良い場所となっている。

(平原委員) 小中学校の美術普及授業は充実している。府中市の子どもたちは恵まれていると感じる。美術普及事業を中心に三つの取り組みについてお話したい。まず連合美術展であるが、市内の小中学校の図工の先生方が中心となり、隔年で実施、市民ギャラリーに展示している。親子で作品鑑賞ができる良い機会といえる。出品された子どもたちは美術館が特別な場所となり、思い出の場所となる。次に美術鑑賞教室は、小学校の場合、卒業までに一度は美術館を訪れ、企画展・常設展を学芸員の説明のもとに鑑賞できる。学芸員の話には感動するものがある。子どもたちへの話しかけの中に「自分が絵の中に入ったらどんな気持ちになるでしょうか?」「一点でも好きな作品を見つけよう。心に残る一点を探そう」など。学芸員の子供たちへの働きかけがとても素晴らしい。鑑賞教室は美術館でのマナー、絵の見方、鑑賞の方法などとても勉強になるので、ぜひ続けてほしい。最後に学びのパスポートを活用することによって、美術作品を親子で鑑賞できるよい機会となる。感性を磨くことのできる美術館となってほしい。また、3小では新しい試みとして、11月6日に道徳地区公開講座を保護者に向け実施、「美術と子どもの目」と題して、志賀学芸係長に講師をお願いした。保護者の方々が美術館に足を運ぶようになればよいと思う。

(吉澤委員) 美術館もデジタル教材化してほしい。韓国、シンガポール、イギリスに比べて日本は遅れている。デジタル教材化することによって、攻めの普及活動ができるのではないか。情報を外へ飛ばしたり、戻したり、情報は各方面に飛んでいき、さらに双方向に行きかうようになる。

(中林会長) 電子黒板とは?

(吉澤委員) 教科書そのままが電子黒板となっている。韓国が最も進んでいて、教室ごとに電子黒板が設置されている。美術館の情報が常に電子黒板によりあらゆるところで入手できるようになる。様々な課題があるが、戦略として美術館もデジタル教材化を進めてほしい。

(中林会長) 美術普及活動にはインターネットを取り入れていると思うが。

(事務局) 府中市ホームページから美術館のサイトをご覧ください。

(薩摩委員) 2000年開館以来、府中市美術館は足腰の強い美術館であるように認識している。学芸員や職員だけでなく、市民の中にある程度美意識が育っていると感じている。さらに、中でも美術館・博物館は極めて特殊な文化施設であるが、一般にはあまり理解されていないように思う。美術館学芸員はコレクションを内容まで突っ込んで管理する必要があり、府中市美術館はレベルとしては高いと思っている。ただ、この10年間の活動は充実し

ているが、開館10年目までは上り坂であり、次の10年が正念場となってくる。「地域に愛される府中市美術館の運営について」という諮問事項に沿って、次の10年への指針・方針を一つずつ具体的なものにしていきたい。

(那須委員) 府中市美術館に足を運ぶ人の輪が広がればよい。人からのアプローチ、また、地域ぐるみで駅からの導線を確保することが望ましいが、美術館単体ではむずかしいと思われる。せっかく「学びのパスポート」があるので、各学校の先生方にお声かけしていただくなり、お友だち同志でぜひ美術館にきてほしい。さらには、土日に親を引き込むような体験できる、体感できる美術館のしかけを考えてほしい。今年度、都の美術の先生方の研究授業が府中市美術館で行われていたが、子どもたちの表情がいきいきとしていて、とてもよかった。

(松浦委員) 企画に関しては優れた企画が多い、バランスがとれている企画が実現されていて、高く評価できると思う。また、これほどたくさん子どもたちが来ている美術館は珍しい。今後はバランスのとれた企画だけであると、マンネリ化したと思われがちになる。府中市は豊かな市である。特に図書館は蔵書数も多く、利用者も多い。これからの10年は、このような優れた施設を連動させられるような企画を考えてみてはどうか。

(赤松委員) もう少し美術館としてポイントをしばった企画展、ポスターや広報のあり方を考えたらどうか。夏休みの子ども向けの展覧会であっても、よい作品は他館からも高い評価を受けていると思う。おもしろいものを行っている、変わった企画がおもしろいなど、ポイントをしばった企画展を考えてもらいたい。

(田中委員) 広報について、今回のバルビゾン展は中バス車内にはポスターがあったが、京王線車内のポスターがなかったように思う。通勤・通学客に向けて「行ってみようかな」と思わせるには、車内ポスターは効果的だと思う。また、携帯画面やインターネットを取り入れた広報は、若い人向けの啓蒙になる。

(中林会長) 広報については毎回、いろいろなご意見をいただいている。

(事務局) ポスター掲出については限られた予算の中で、その展覧会の集客に合わせた形でポイントをしばっている。今回、10周年記念展では府中市内の広告を強化するために、電柱表示、フラッグの作成、横断幕・懸垂幕の作成等、また、美術館への道順案内の整備などにポイントをしばった。

(田中委員) 今回の企画展は、新聞に何度も府中市美術館の記事が掲載されていて、効果的であると思う。

(中林会長) 市内にしばった広報など、個別に検討しつつ、実施している。4月から9月までの入場者数10万人という数字は、広報戦力効果の現れともいえる。

(横山委員) 今回の10周年記念展で、新聞折り込みの中にチラシを入れたことは市内全域に行きわたる方法としては、とてもよかった。また、美術館

の中に他館のポスターやチラシがあるのがよい。個人的には、武蔵野のゆかりのある風景の展覧会でとても素晴らしかった。今後もこのような収集方針を続けてほしい。

(藤原副会長) 情報のデジタル化は避けて通れないことなので、早急に取り組む必要があると思う。次に「彫刻のあるまちふちゅう」に関連して、市内をめぐるツアーなどを企画してみたらどうか。また、美術館に来ていただいて、気持ちよくこの空間を共有できるように、たとえば、食事をして満足して帰るといのように「食」にも注目してみたらどうか。最後に「学び」ということに関して、これからの子どもたちを美術館に結びつける、子どもたちが考えているアートを引き出してあげるためにも頑張っていきたい。

(中林会長) 学校連携についてはうまくいっているといえる。

(平原委員) 鑑賞教室以外で小中学生がどの程度、美術館を訪れているのか、イベント等がどのように日常に普及しているのか、知りたい。

(事務局) 美術館の中で小中学生を見かけることは、確かに増えている。関心は高まっていると思われる。

(那須委員) 北多摩中学校美術展や府中市連合美術展などは、自分の作品や身近な人の作品が出品されているから見に来る。「学びのパスポート」がありながら、2階の企画展を見に行く子どもは少ないのが現状である。

(中林会長) 鑑賞教室の効果はいかがか。

(事務局) 鑑賞教室は市内の小中学生は4～6年のうちに1回、実施されている。中学生はほとんどの中学校が1年の時、夏休みを利用しての個人観賞が基本である。「学びのパスポート」の利用率が低いため、今後に期待したい。

(中林会長) 学校で集団で鑑賞することはあっても、個人での鑑賞はまだまだ少ないようである。中学生の効果はあるのか。

(那須委員) 中学1年生は夏休みの課題としてクリアしている状態といえる。

(事務局) 博物館実習の学生は府中市内、もしくは府中市近郊の学生が多くて、過去に一度は来ている美術館として覚えている。ゆっくりではあるが、鑑賞教室の成果はあがっていると思われる。

(吉澤委員) 生徒が生徒による誘導をする。ジュニアリーダー等の活用も考えてみたらどうか。

(赤松委員) 今の若い人の傾向として、本や活字よりもツイッター、まんがに興味を持つ。デジタル化することにより集客力はあがる。

(藤原副会長) 今の時代背景を一つの流れと認めた上で、来てもらうためにはデジタル化の充実が必要。府中市のホームページを時々拝見するが、どこも同じで楽しさ感が少ない、より工夫をして柔軟性を持たせた方がいい。

(薩摩委員) 広報において大切なのは、定点を決めること。そして、展覧会に合わせて柔軟性を持たせることにある。学芸員は個人の経験にとどめず、組織として広報を共有して行くべきである。デジタル化については、美術を情報化していくことは非常に難しい問題である。結論は出ないが討議を重ね

る必要はある。次に食べ物については、美しいものに接したい、おいしいものを食べたいというのは人間として根本的な欲求といえる。今後、愛される美術館としての一つのキーワードになると思う。

(中林会長) デジタル化については、何を伝えたいのか、どう伝えるのか、今後、府中市美術館の方向性については示していただきたい。先ほど、松浦委員からの発言の中にもあったが、府中市の中央図書館は蔵書も多く、内容も素晴らしいので、利用客も多い。美術館の特集コーナーを作っていただくなどして、活用したらよいのではないか。

(事務局) 現状を説明させていただくと、1階部分にポスターを貼ったり、ちらしを置いたり、書架コーナーではわずかではあるが図録や参考図書なども置かせていただいている。今後、さらに有効活用したい。

(館長) 次回企画展「アートサイト府中2010」では図書館での作品展示を計画している。

(事務局) 中央図書館の多目的ルームと生涯学習センター・アトリウム、専門店街フォーリスで菱山裕子さんの作品展示を予定している。スタンプラリーやまちなかイベントも企画している。

(館長) 美術館だけでなく、美術館を出て、町に攻めていく展示となる。

(中林会長) 彫刻のあるまちふちゅうについては、過去にも何度か取り上げてきたが、府中市美術館の管理しているものはどのくらいあるのか。

(事務局) 維持管理を含めて17作品である。

(中林会長) 初回にもかかわらず、突っ込んだご意見をいただき、ありがとうございました。次回は6月以降を予定している。10周年記念展を経て、それ以降の展覧会について、また、デジタル化をどのように図るか、今後、話し合っていきたい。長時間、ありがとうございました。

(2) その他

なし